

【家庭基礎(家基701)】シラバス・年間指導計画案

※内容により、同じめあてが重複して複数箇所に入っている場合があります。

教科		科目	単位数	学科等			使用教科書名(出版社)								
家庭		家庭基礎	2	全日制・普通科・1年			家庭基礎 自立・共生・創造(東京書籍 家基701)								
科目の目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 (2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 (3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。							評価の観点(科目)			重点的に評価する観点				
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知	思	態									
月	時数	単元名	項目名	学習指導要領	教科書頁	配当時数	時数計	学習のめあて	備考(学習活動の特記事項、他教科との関連等)	課題・提出物等	知	思	態		
4月	1	家庭科の学び方(言語活動の充実) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	家庭科の学び方	A~D	見返し1-2	1	2	・ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解する。 ・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。	・学校全体の教育活動と関連させる。 ・地域の社会福祉協議会等と連携させる。 ・ホームプロジェクトにつながるよう、生活から課題を見つけることを常に意識させる。 ・ホームプロジェクトは長期休み等に実施する。	・レポート ・ワークシート ・学習ノート ・実験・実習レポート など	○	○	○		
	2		生活に生かそう・自分の意見を文章にまとめよう	D	4~11	1									
	3	第1章 生涯を見通す	1人生を展望する	A(1)	12~17	1	2	・自立した生活を営むために、生涯発達の見点からライフステージの特徴と課題を理解する。	・これまでの自分を客観的に振り返らせる。 ・「18歳成年時代」の自立について特に考えさせる。 ・ライフコースの参考になる各種例や資料を示し、集めさせる。 ・(SDGsとの関連)1, 8, 10~12, 17 ・(連携)社会福祉協議会、NPO法人等、学校家庭クラブ活動等	○	○	○			
	4		2目標を持って生きる		18~21	1							・生活課題に対して意思決定を行う重要性を理解し、歩みたい人生の目標を描く。	・(章の関連)第2~11章、「TRYライフプラン」 ・(他教科・科目関連)総合的な学習の時間(キャリア教育)	○
	5		1人生をつくる	A(2)	22~25	2	5	・生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように、さまざまな生き方について理解する。 ・よりよい家庭生活を実現するために、家族・家庭と私たちの生活の結びつきを理解する。 ・社会制度としての家族や家族と法律を理解する。	・ライフスタイルの多様性や課題について、新聞記事等で事例を示し、集めさせる。 ・(SDGsとの関連)1, 3~5, 8, 10, 16, 17 ・(連携)社会福祉協議会、NPO法人等、学校家庭クラブ活動等	○	○	○			
6	2家族・家庭を見つめる	26~31	2		・(章の関連)第1, 3~8, 10~11章 ・(他教科・科目関連)倫理、公共、政治・経済、保健	○							○	○	
7	3これからの家庭生活と社会	32~35	1		・誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造できるよう、仕事と家庭の両立や家庭生活と地域の結びつきについて理解する。 ・誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造するにはどのような社会を実現すればよいか、考えて実践しようとする。	○							○		
5月	8	第2章 人生をつくる	1命を育む	A(3)	38~40	1	9	・命に対する責任や、社会の一員として次世代を育む責任を持つために、性と生殖に関する健康について理解する。 ・子どもの発達に応じて適切に関われるようになるために、子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。 ・子どもが健康・快適・安全に育つ環境を整えられるようになるために、子どもの生活習慣や衣食住について理解する。 ・子どもや子育てに対する理解を深めるために、子どもとの触れ合いや、親や保育者と子どもの関わり方の観察など、さまざまな体験をする。 ・社会全体で子育てを支えていくために、現代の子育て環境の変化や課題について理解する。 ・子どもが健やかに育つ社会をどのように実現すればよいか、考えて実践しようとする。	・視聴覚教材を活用する。 ・子どもに関する情報を調べさせる。 ・(SDGsとの関連)1~5, 8~12, 16, 17 ・(連携)幼稚園、保育所、認定こども園、小学校、学童クラブ、社会福祉協議会等、学校家庭クラブ活動等 ・(章の関連)第1, 5, 6~8, 10~11章 ・(他教科・科目関連)公共、政治・経済、生物基礎、保健	○	○	○			
	9		2子どもの育つ力を知る		41~47	2							○		
	10		3子どもと関わる		48~51	2							○	○	○
	11	4子どもとの触れ合いから学ぶ	52~55		2	○									
	12	5これからの保育環境	56~61		2	○							○		
6月	13	第3章 子どもと共に育つ	1超高齢・大衆長寿社会の到来	A(4)	64~66	1	5	・超高齢社会の背景を理解する。 ・高齢者が生きがいを持って生活するためには、家族や地域によるどのような支援が必要か、考える。 ・高齢者に伴う心身の変化や高齢者の生き方や尊厳について理解を深める。 ・高齢期を支える社会の仕組みや課題について考える。 ・高齢者の自立を支えるために私たちにできる適切な支援の方法や関わり方を考える。 ・超高齢社会の課題を踏まえて、自分自身の高齢期をよりよく生きられるようにするとともに、地域社会の一員として高齢者との関わり方を考え、行動しようとする。	・身近な高齢者と接触する機会を持つ。 ・視聴覚教材を活用する。 ・高齢者に関する情報を調べさせる。 ・(SDGsとの関連)1, 3, 5, 8~11, 17 ・(連携)高齢者施設、社会福祉協議会等、学校家庭クラブ活動等 ・(章の関連)第1, 5~8, 10~11章 ・(他教科・科目関連)公共、政治・経済、保健	○	○	○			
	14		2高齢者の心身の特徴		67~71	2							○		
	15		3これからの超高齢社会		72~75	2							○	○	
	16														
7月	17	第4章 超高齢社会を共に生きる													
	18														
	19														
9月	20	巻頭・各章末 ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	・生活に生かそう ・各章末「ホームプロジェクト」	D	4~9	1	1	・ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解する。 ・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。	・発表形式や時期を工夫する。	●夏休みの宿題(または冬休みや学期中に実施) ・ホームプロジェクト	○	○	○		
	21		1私たちの生活と福祉	A(5)	78~79	1	3	・誰もが生涯を通して自分の力を生かし、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて、家族・家庭生活を支える福祉について理解する。 ・共に支え合う社会の実現に向けて、国・地方公共団体の制度などの支援体制、支え合いの構造について理解する。 ・私たちが多様性を発揮して共に豊かに暮らせる社会に向けて、個人や地域はどのような役割を果たし、つながっていけばよいか、考えて実践しようとする。	・(SDGsとの関連)1~4, 7~17 ・(連携)社会福祉協議会、NPO法人等、学校家庭クラブ活動等 ・(章の関連)第1, 3~4, 10~11章 ・(他教科・科目関連)公共、倫理、政治・経済、科学と人間生活、地学基礎、保健	○	○	○			
	22		2社会保障の考え方		80~81	1							○		
23	3共に生きる	82~85	1		○										

月	時数	単元名	項目名	学習指導要領	教科書頁	配当時数	時数計	学習のめあて	重点的に評価する観点									
									備考(学習活動の特記事項、他教科との関連等)	課題・提出物等	知	思	態					
10月	28	第6章 食生活をつくる	1食生活の課題について考える	B(1)	86~89	1	17	・よりよい食習慣を身に付け、生涯を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化などを理解する。	・小・中学校での学習内容と系統立てる。 ・食品成分表やアミノ酸成分表の見方を指導し活用する。 ・食品の1日の摂取量を実物や見本などで示し、具体的に把握させる。 ・実習の計画性・安全性に十分配慮する。 ・「化学」「生物」と関連させる。 ・(SDGsとの関連)1~4, 9, 10, 12~17 ・(連携)地域の食生活に関わる産業等、学校家庭クラブ活動等 ・(章の関連)第1, 3~4, 10~11章 ・(他教科・科目関連)科学と人間生活、化学、生物基礎	○								
	29		2食事と栄養・食品		90~101	4		・自分や家族が健康に過ごす食生活に役立てるために、栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理性について、科学的な理解を深める。		○	○							
	30				3食生活の選択と安全	102~105		2		・安全で衛生的な食生活を営むために食品の選び方、保存や加工の方法、食中毒や食物アレルギー、安全を確保するための仕組みに関する知識を身につける。	○	○						
	31					4生涯の健康を見通した食事計画		106~111		2	・自分や家族の食生活を計画・管理できるようになるために、各ライフステージの食生活の特徴や課題を理解し、「健康によい、栄養バランスのよい食事」とはどのようなものかを理解する。	○		○				
	32							5調理の基礎		112~125	5	・食生活の自立に必要な調理の知識と技術を身につけるために、調理や加工によりおいしさが変化することを科学的に捉える。 ・配膳やマナーに関心を持つ。	○					
	33		6食生活の文化と知恵	126~127	1	・郷土食や行事食などのよいところを継承・創造するために、日本の食文化の特徴を確認する。 ・世界の食文化に関心を持ち、私たちの食生活への影響について理解する。						○						
	34			7これからの食生活	128~131	2		・自分や家族の食生活を持続可能にすることができるようになるために、安全・環境・健康など食生活に関わる情報を適切に判断し、広い視野で食生活について考える。				○						
	35		第7章 衣生活をつくる		1被服の役割を考える	B(2)		134~139		2	10	・私たちが被服を着用するに至った、社会的・文化的背景と被服の多様な機能や特徴について理解する。 ・用途に合った着装を実践できる力を身につけるために、社会生活を営むうえでの被服の役割を理解する。	・見本を用いた実験・実習や視聴覚教材を活用する。 ・(SDGsとの関連)1~3, 6~10, 12~17 ・(連携)地域の衣生活に関わる産業等、学校家庭クラブ活動等 ・(章の関連)第1, 3~4, 10~11章 ・(他教科・科目関連)科学と人間生活、化学	○	○			
	36			2被服を入手する								140~147		3	・健康・快適・安全な生活を送るために被服に施されている工夫について理解する。 ・被服表示を参考にして目的に応じた被服入手と着装について考えられる力を身につけるために、被服の材料や性能、加工について科学的に理解する。	○		
	37											3被服を管理する		148~153	2	・手持ちの被服を長期にわたり着用することができるよう、管理や手入れの工夫について理解する。 ・環境に配慮した衣生活について考え、実践できる力を身につけるために、被服の洗濯や保管方法を科学的に理解する。	○	
38	4衣生活の文化と知恵	154~157					1		・現代に受け継がれる日本の衣文化の工夫を受け継ぐために、日本の衣生活の変遷や日本の衣文化に込められる知恵や技術について知り、日本の民族衣装としての和服や世界の民族衣装について理解する。							○		
39		5これからの衣生活					158~161		2			・次世代に引き継げる衣生活の在り方を考えるために、資源の消費の視点で自分の衣生活を見直す。 ・全ての人が健康・安全・快適な衣生活を営むためのユニバーサルデザインの被服について理解を深める。		○	○			
40	第8章 住生活をつくる			1住生活の変遷と住居の機能	B(3)	164~169	2	5	・生涯を見通した住生活について考え、将来に向けて自立するために、私たちの毎日の生活を支える生活拠点ともなる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。	・住宅広告や住宅情報誌、インターネットなどを活用する。 ・住まいに対するイメージを広げる。 ・(SDGsとの関連)3, 6, 7, 9~15, 17 ・(連携)地域の住生活に関わる産業等、学校家庭クラブ活動等 ・(章の関連)第1, 3~4, 10~11章 ・(他教科・科目関連)地理総合		○		○				
41		2安全で快適な住生活の計画							170~173			1.5		・自らの住生活に生かすことができるよう、防災、日照、換気などに関する環境性能について理解を深め、快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。	○			
42									3住生活の文化と知恵			174~175		0.5	・日本の住文化の継承・創造に寄与するために、気候や風土の違い、時代の変化によって、大きく異なる世界や日本のさまざまな住文化について理解する。			○
43		4これからの住生活		176~181	1	・持続可能な住居や、自助・互助・共助・公助に基づく地域コミュニティづくり、まちづくりの担い手になるために、環境に配慮した住生活について理解する。								○				
44				第9章 経済生活を営む	1情報の収集・比較と意思決定	C(2)	184~186		1			8		・自立した責任ある消費者として、よりよい意思決定ができるよう、現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解する。	・実生活の家計の収支を認識させる。 ・日常のニュースから実際に起こっている消費者問題を収集させる。 ・消費者市民社会の一員として、できることを考えさせる。 ・(SDGsとの関連)1~5, 7~10, 12~17 ・(連携)NPO法人、金融機関、学校家庭クラブ活動等 ・(章の関連)第1, 10~11章 ・(他教科・科目関連)地理総合、公共、政治・経済、情報I	○	○	
45	2購入・支払いのルールと方法	187~189	2					・毎日の生活におけるさまざまな契約について理解する。 ・販売方法や支払い方法が多様化する中で責任ある消費行動が取れるよう、契約の重要性について理解する。		○								
46		3消費者の権利と責任	190~191		1		・消費者には権利と責任があることを理解する。 ・消費者問題を予防し適切に対応できるよう、消費者保護制度について理解する。 ・消費者の権利と責任の変遷を踏まえて、どうすれば消費者市民社会が実現できるか考えて実践しようとする。	○	○	○								
47			4生涯の経済生活を見通す		192~197		3	・生涯安定した経済生活を営めるように、経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について理解する。	○	○								
48	5これからの経済生活	198~199			1		・大きく変化する世界経済の中で家計をマネジメントする力をつけるため、家計と地域経済・国民経済・国際経済のつながりについて理解する。 ・どうすれば持続可能な経済成長が実現できるか考えて実践しようとする。	○	○									
49		第10章 持続可能な生活を営む	1持続可能な社会を目指して	C(3)	200~205	2	2	・持続可能な社会を構築するために、持続可能な消費や生活について理解し、ライフスタイルを工夫する。 ・一人の主体者として、社会全体をよりよい方向に動かしていこうとする。	・日常生活から持続可能性に関わる問題を考えさせる。 ・持続可能な社会を構築するために、できることを考えさせる。 ・(SDGsとの関連)1~17 ・(連携)NPO法人、学校家庭クラブ活動等 ・(章の関連)第1, 6~9, 10~11章 ・(他教科・科目関連)地理総合、歴史総合、日本史探究、世界史探究、公共、倫理、政治・経済、生物基礎、生物、保健	○	○	○						
50																		
51																		
12月	45	第7章 衣生活をつくる	1被服の役割を考える	B(2)	134~139	2	10	・私たちが被服を着用するに至った、社会的・文化的背景と被服の多様な機能や特徴について理解する。 ・用途に合った着装を実践できる力を身につけるために、社会生活を営むうえでの被服の役割を理解する。	・見本を用いた実験・実習や視聴覚教材を活用する。 ・(SDGsとの関連)1~3, 6~10, 12~17 ・(連携)地域の衣生活に関わる産業等、学校家庭クラブ活動等 ・(章の関連)第1, 3~4, 10~11章 ・(他教科・科目関連)科学と人間生活、化学	○	○							
	46							2被服を入手する		140~147	3	・健康・快適・安全な生活を送るために被服に施されている工夫について理解する。 ・被服表示を参考にして目的に応じた被服入手と着装について考えられる力を身につけるために、被服の材料や性能、加工について科学的に理解する。	○					
47	3被服を管理する									148~153	2	・手持ちの被服を長期にわたり着用することができるよう、管理や手入れの工夫について理解する。 ・環境に配慮した衣生活について考え、実践できる力を身につけるために、被服の洗濯や保管方法を科学的に理解する。	○					
48										4衣生活の文化と知恵	154~157	1	・現代に受け継がれる日本の衣文化の工夫を受け継ぐために、日本の衣生活の変遷や日本の衣文化に込められる知恵や技術について知り、日本の民族衣装としての和服や世界の民族衣装について理解する。			○		
49	5これからの衣生活										158~161	2	・次世代に引き継げる衣生活の在り方を考えるために、資源の消費の視点で自分の衣生活を見直す。 ・全ての人が健康・安全・快適な衣生活を営むためのユニバーサルデザインの被服について理解を深める。	○	○			
50			第8章 住生活をつくる	1住生活の変遷と住居の機能	B(3)	164~169		2		5	・生涯を見通した住生活について考え、将来に向けて自立するために、私たちの毎日の生活を支える生活拠点ともなる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。	・住宅広告や住宅情報誌、インターネットなどを活用する。 ・住まいに対するイメージを広げる。 ・(SDGsとの関連)3, 6, 7, 9~15, 17 ・(連携)地域の住生活に関わる産業等、学校家庭クラブ活動等 ・(章の関連)第1, 3~4, 10~11章 ・(他教科・科目関連)地理総合	○	○				
51	2安全で快適な住生活の計画										170~173		1.5	・自らの住生活に生かすことができるよう、防災、日照、換気などに関する環境性能について理解を深め、快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。	○			
52											3住生活の文化と知恵		174~175	0.5	・日本の住文化の継承・創造に寄与するために、気候や風土の違い、時代の変化によって、大きく異なる世界や日本のさまざまな住文化について理解する。			○
53	4これからの住生活			176~181	1	・持続可能な住居や、自助・互助・共助・公助に基づく地域コミュニティづくり、まちづくりの担い手になるために、環境に配慮した住生活について理解する。								○				
54				第9章 経済生活を営む	1情報の収集・比較と意思決定	C(2)		184~186			1		8	・自立した責任ある消費者として、よりよい意思決定ができるよう、現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解する。	・実生活の家計の収支を認識させる。 ・日常のニュースから実際に起こっている消費者問題を収集させる。 ・消費者市民社会の一員として、できることを考えさせる。 ・(SDGsとの関連)1~5, 7~10, 12~17 ・(連携)NPO法人、金融機関、学校家庭クラブ活動等 ・(章の関連)第1, 10~11章 ・(他教科・科目関連)地理総合、公共、政治・経済、情報I	○	○	
55	2購入・支払いのルールと方法	187~189	2				・毎日の生活におけるさまざまな契約について理解する。 ・販売方法や支払い方法が多様化する中で責任ある消費行動が取れるよう、契約の重要性について理解する。		○									
56		3消費者の権利と責任	190~191		1		・消費者には権利と責任があることを理解する。 ・消費者問題を予防し適切に対応できるよう、消費者保護制度について理解する。 ・消費者の権利と責任の変遷を踏まえて、どうすれば消費者市民社会が実現できるか考えて実践しようとする。	○	○	○								
57			4生涯の経済生活を見通す		192~197		3	・生涯安定した経済生活を営めるように、経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について理解する。	○	○								
58	5これからの経済生活	198~199			1		・大きく変化する世界経済の中で家計をマネジメントする力をつけるため、家計と地域経済・国民経済・国際経済のつながりについて理解する。 ・どうすれば持続可能な経済成長が実現できるか考えて実践しようとする。	○	○									
1月		55	第8章 住生活をつくる	1住生活の変遷と住居の機能	B(3)	164~169	2	5	・生涯を見通した住生活について考え、将来に向けて自立するために、私たちの毎日の生活を支える生活拠点ともなる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。	・住宅広告や住宅情報誌、インターネットなどを活用する。 ・住まいに対するイメージを広げる。 ・(SDGsとの関連)3, 6, 7, 9~15, 17 ・(連携)地域の住生活に関わる産業等、学校家庭クラブ活動等 ・(章の関連)第1, 3~4, 10~11章 ・(他教科・科目関連)地理総合	○	○						
	56	2安全で快適な住生活の計画							170~173		1.5	・自らの住生活に生かすことができるよう、防災、日照、換気などに関する環境性能について理解を深め、快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。	○					
	57								3住生活の文化と知恵		174~175	0.5	・日本の住文化の継承・創造に寄与するために、気候や風土の違い、時代の変化によって、大きく異なる世界や日本のさまざまな住文化について理解する。			○		
58	4これからの住生活	176~181		1	・持続可能な住居や、自助・互助・共助・公助に基づく地域コミュニティづくり、まちづくりの担い手になるために、環境に配慮した住生活について理解する。						○							
59		第9章 経済生活を営む		1情報の収集・比較と意思決定	C(2)	184~186	1		8		・自立した責任ある消費者として、よりよい意思決定ができるよう、現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解する。	・実生活の家計の収支を認識させる。 ・日常のニュースから実際に起こっている消費者問題を収集させる。 ・消費者市民社会の一員として、できることを考えさせる。 ・(SDGsとの関連)1~5, 7~10, 12~17 ・(連携)NPO法人、金融機関、学校家庭クラブ活動等 ・(章の関連)第1, 10~11章 ・(他教科・科目関連)地理総合、公共、政治・経済、情報I	○	○				
60	2購入・支払いのルールと方法							187~189		2	・毎日の生活におけるさまざまな契約について理解する。 ・販売方法や支払い方法が多様化する中で責任ある消費行動が取れるよう、契約の重要性について理解する。		○					
61				3消費者の権利と責任		190~191	1	・消費者には権利と責任があることを理解する。 ・消費者問題を予防し適切に対応できるよう、消費者保護制度について理解する。 ・消費者の権利と責任の変遷を踏まえて、どうすれば消費者市民社会が実現できるか考えて実践しようとする。		○	○		○					
62						4生涯の経済生活を見通す	192~197	3		・生涯安定した経済生活を営めるように、経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について理解する。	○		○					
63	5これからの経済生活			198~199			1	・大きく変化する世界経済の中で家計をマネジメントする力をつけるため、家計と地域経済・国民経済・国際経済のつながりについて理解する。 ・どうすれば持続可能な経済成長が実現できるか考えて実践しようとする。		○	○							
2月		60		第9章 経済生活を営む	1情報の収集・比較と意思決定	C(2)	184~186	1	8	・自立した責任ある消費者として、よりよい意思決定ができるよう、現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解する。	・実生活の家計の収支を認識させる。 ・日常のニュースから実際に起こっている消費者問題を収集させる。 ・消費者市民社会の一員として、できることを考えさせる。 ・(SDGsとの関連)1~5, 7~10, 12~17 ・(連携)NPO法人、金融機関、学校家庭クラブ活動等 ・(章の関連)第1, 10~11章 ・(他教科・科目関連)地理総合、公共、政治・経済、情報I	○	○					
	61	2購入・支払いのルールと方法	187~189							2		・毎日の生活におけるさまざまな契約について理解する。 ・販売方法や支払い方法が多様化する中で責任ある消費行動が取れるよう、契約の重要性について理解する。	○					
	62		3消費者の権利と責任		190~191		1	・消費者には権利と責任があることを理解する。 ・消費者問題を予防し適切に対応できるよう、消費者保護制度について理解する。 ・消費者の権利と責任の変遷を踏まえて、どうすれば消費者市民社会が実現できるか考えて実践しようとする。		○		○	○					
63	4生涯の経済生活を見通す				192~197		3	・生涯安定した経済生活を営めるように、経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について理解する。		○		○						
64		5これからの経済生活	198~199		1		・大きく変化する世界経済の中で家計をマネジメントする力をつけるため、家計と地域経済・国民経済・国際経済のつながりについて理解する。 ・どうすれば持続可能な経済成長が実現できるか考えて実践しようとする。	○		○								
3月	65		第10章 持続可能な生活を営む		1持続可能な社会を目指して	C(3)	200~205	2	2	・持続可能な社会を構築するために、持続可能な消費や生活について理解し、ライフスタイルを工夫する。 ・一人の主体者として、社会全体をよりよい方向に動かしていこうとする。	・日常生活から持続可能性に関わる問題を考えさせる。 ・持続可能な社会を構築するために、できることを考えさせる。 ・(SDGsとの関連)1~17 ・(連携)NPO法人、学校家庭クラブ活動等 ・(章の関連)第1, 6~9, 10~11章 ・(他教科・科目関連)地理総合、歴史総合、日本史探究、世界史探究、公共、倫理、政治・経済、生物基礎、生物、保健	○	○	○				
	66																	
	67																	

月	時数	単元名	項目名	学習指導要領	教科書頁	配当時数	時数計	学習のめあて	重点的に評価する観点				
									備考(学習活動の特記事項, 他教科との関連等)	課題・提出物等	知	思	態
	70	第11章 これからの生活を創造する	1生活をデザインする	A(1)	208～213	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・人生の目標を達成し、自分らしい生活が実現できるよう、各ライフステージの課題や生活資源、リスク管理について振り返りながら生活設計ができるようになる。 ・これから持続可能な社会を構築していくために、何ができるか考えて実践しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関連するデータや視聴覚教材を用意したり、自分で集めさせたりする。 ・(SDGsとの関連) 1～5, 8, 10, 11, 12, 16, 17 ・(連携) NPO法人、学校家庭クラブ活動等 ・(章の関連) 第1～10章 ・(他教科・科目関連) 公共 		○	○	○